



サポーターインタビュー
NPOを支える方々

Heart & Heart

コミュニティ・ユース・バンクmomo

全国に広げたい「お金の循環で地域を創る」

「社会貢献活動を行っているNPOにも優良な融資先はあります。ただ、NPOと付き合う経験の少ない金融機関の方には、融資の適否を判断するのが難しい。そこで始めたのが、金融機関の職員を対象とした勉強会です。とても好評で、最近ではNPOも地域の大切な融資先の一つとして認められるようになってきました。とにかく、地域が自立するには、地域内でお金が循環しなければなりません。それが「お金の地産地消です」と、代表理事の木村真樹さんは熱く語ります。

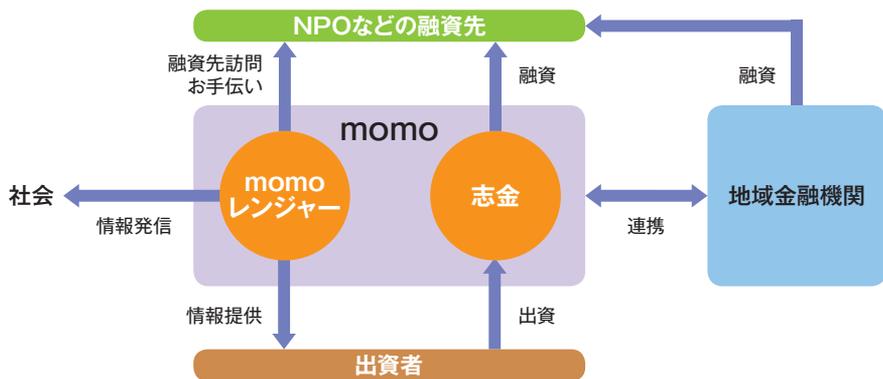
進む地域金融機関との連携

「momoは、地域の金融機関から融資を断られた案件に融資を行ってきましたが、この10年間融資事故が全くないのも注目されます。

融資後を支える「momoレンジャー」

momoの活動は、出資を集めて融資を行うだけではありません。その大きな特徴となっているのが、20〜30代の若者による「momoレンジャー」。彼らは民間企業や官公庁、大学などに所属しながら、ボランティア活動として各自が持つスキルを生かし、出資者と融資先をつなぐ役割を担っています。

「momoレンジャー、これこそが私たちのウリ！ 融資して終わりではなく、実は融資後のサポートこそ大切だと考えています。ウェブサイトの構築



10年間、融資事故ゼロという実績

今回はNPOへ直接融資を行っている「コミュニティ・ユース・バンクmomo」の活動を紹介します。お話を伺ったのは代表理事の木村真樹さんです。

2005年に融資を始めて今年で10年目。500人を超す個人と団体からの出資金約5千万円を原資とし、14年末時点の融資累計は約1億3千万円。ただし、出資に対する配当はありません。

「地域には社会に貢献する事業を始めたいと考えている方がたくさん

「社会貢献活動を行っているNPOにも優良な融資先はあります。ただ、NPOと付き合う経験の少ない金融機関の方には、融資の適否を判断するのが難しい。そこで始めたのが、金融機関の職員を対象とした勉強会です。とても好評で、最近ではNPOも地域の大切な融資先の一つとして認められるようになってきました。とにかく、地域が自立するには、地域内でお金が循環しなければなりません。それが「お金の地産地消です」と、代表理事の木村真樹さんは熱く語ります。

momoは、愛知・岐阜・三重の東海3県を対象地域として活動していますが、他県の行政や地域金融機関からも注目されており、勉強会の開催がいくつか進行中とのこと。ちなみに、momoは本年5月、こうした取り組みが評価され、日本経済新聞社の第3回「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」国内部門賞を受賞しました。



木村真樹(きむらまさき)
1977年愛知県生まれ。大学卒業後、地方銀行勤務を経て、A SEED JAPAN事務局やap bank運営事務局スタッフなどを歴任。2005年にコミュニティ・ユース・バンクmomoを設立し、若者たちによる「お金の地産地消」の推進や、市民公益活動へのハンズオン支援活動を行っている。公益財団法人あいちコミュニティ財団代表理事、NPO法人日本ファンドレイジング協会理事なども務める。



「お金の地産地消白書2014」

地球環境基金の助成を受けて作成された36ページの小冊子。地域金融機関がNPOを支援する際に必要となる基礎知識や情報を掲載。現在、各地で開催されている地域金融機関の職員向け勉強会で、テキストとしても使用されている。